



2020年5月15日

各位

会社名 株式会社タケエイ
 代表者名 代表取締役社長 阿部 光男
 (コード: 2151 東証第1部)
 問合せ先 取締役常務執行役員 上川 毅
 (TEL 03-6361-6871)

新中期経営計画『2023 to the FUTURE』策定のお知らせ

1. 新中期経営計画の位置づけ

「総合環境企業」として、資源循環型社会へ貢献するタケエイグループは、引き続き取扱量の拡大、廃棄物の製品化及びエネルギー化に向けた設備投資、M&A、協業化を積極的に推進いたします。そのためにも、投資規模に見合った利益とリターン確保については継続したフォローアップが必要です。

この度、前期末(2020年3月期)に対象期間が終了しました中期経営計画『VISION for 2020』に引き続き、新たな中期経営計画『2023 to the FUTURE』を策定し、当社グループの今後の業績目標及び成長戦略等を定めましたのでお知らせいたします。

2. 対象期間

- ①業績目標の対象は、3か年(2021年3月期～2023年3月期)といたします。
- ②定性目標の対象は、2030年の将来像までといたします。

3. 業績目標 (2021年3月期～2023年3月期)

(百万円未満切捨て)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 見込	2022年3月期 見込	2023年3月期 見込	成長率 (2020/3月期比)
売上高	37,713	41,000	45,000	47,000	1.2倍
営業利益	3,298	3,400	4,600	5,200	1.6倍
営業利益率	8.7%	8.3%	10.2%	11.1%	+ 2point
当期純利益	1,765	1,770	2,500	2,800	1.6倍

*配当性向は25%以上を継続。自己資本率は40%超を目指す。

4. 定性目標

- ① 再生可能エネルギー事業を通じて一層の環境への貢献、競争力の強化を図る
- ② 社会問題として深刻化している廃プラスチック等のリサイクルについてグループ対応力強化を図る
- ③ M&A、協業化により「総合環境企業」としての事業領域拡充する
- ④ 循環資源である廃棄物の付加価値化、製品化を推進し、その為の技術研究開発を積極的に行う
- ⑤ 災害廃棄物の処理や、タケエイSDGs推進財団の活動等を通じて社会貢献する
- ⑥ 環境企業としての創業精神を継承し、グループ人財を活性化する

こうした取組みを着実に推進することにより、国家の環境保全に資する「総合環境企業」を目指します。

添付: タケエイグループ中期経営計画『2023 to the FUTURE』

ご注意: 本資料に記載されたあらゆる情報は、過去の実績値、概算値、あるいは資料作成時点における将来の予測値であり、数値目標の達成、および将来の業績を保証するものではありません。記述にあたっては、最善を尽くすよう努力しておりますが、既知、または未知のリスク、およびその他不確実要素等を内包しております。その情報の正確性または完全性を保証、またはお約束するものではありません。

以上

タケエイグループ中期経営計画

『2023 to the FUTURE』 ～国家の環境保全に資する総合環境企業へ～

2020年5月15日
株式会社タケエイ



2023 to the FUTURE

中計『2023 to the FUTURE』の概要

「総合環境企業」として資源循環型社会へ貢献する

1. 中計位置づけ：

「総合環境企業」として、資源循環型社会へ貢献するタケエイグループは、引き続き取扱量の拡大、廃棄物の製品化及びエネルギー化に向けた設備投資、M&A、協業化へ積極的に取組みます。業績目標及び成長戦略等を明示すべく中期経営計画『2023 to the FUTURE』を策定いたしました。

2. 対象期間：

- ① 2021年3月期～2023年3月期の3カ年（数値目標明示）
- ② 5年、10年後の将来像（定性目標として成長戦略等提示）

3. 定量目標：

売上高470億円 / 営業利益52億円（営業利益率11%） / 当期純利益28億円 《2023年3月期》

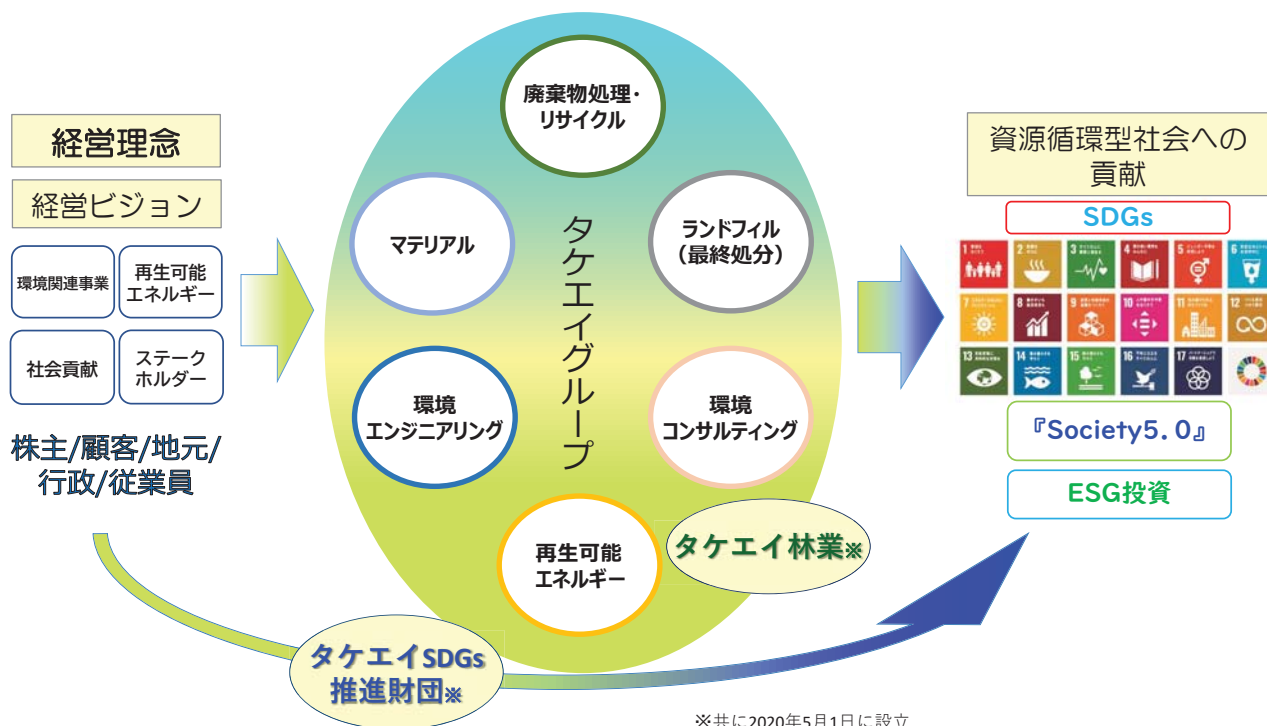
4. 定性目標：5年後、10年後の将来像を具体化するための成長戦略等

- ① 再生可能エネルギー事業を通じて一層の環境への貢献、競争力の強化を図る
- ② 社会問題として深刻化している廃プラスチック等のリサイクルについてグループの対応力強化を図る
- ③ M&A、協業化により「総合環境企業」としての事業領域を拡充する
- ④ 循環資源である廃棄物の付加価値化、製品化を推進し、その為の技術開発を積極的に行う
- ⑤ 自然災害による災害廃棄物の処理やタケエイSDGs推進財団の活動等を通じて社会貢献する
- ⑥ 環境企業としての創業精神を継承し、グループ人財を活性化する



『2023 to the FUTURE』の基本コンセプト

国家の環境保全に資する総合環境企業へ



中計『2023 to the FUTURE』 3年後の姿（数値目標）

※連結ベース

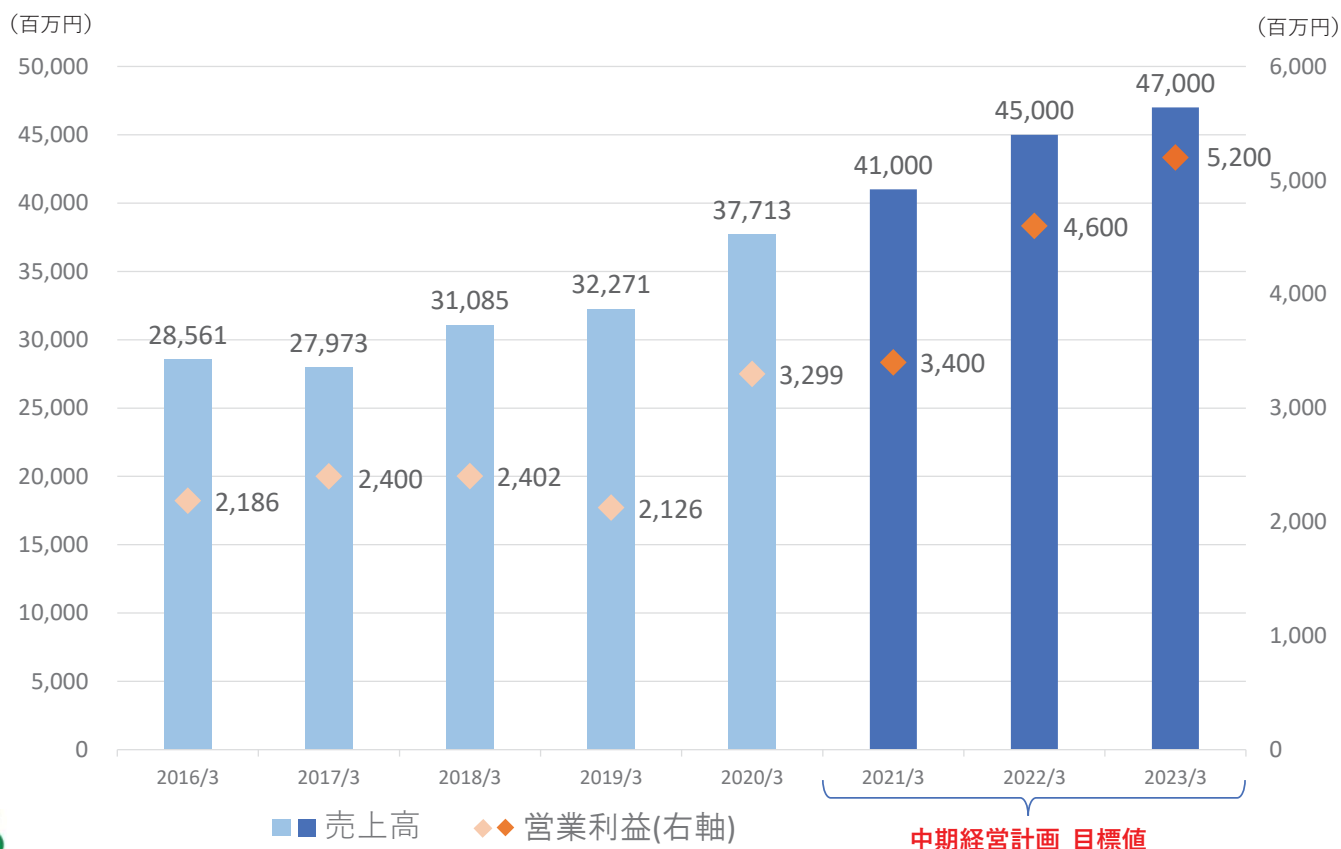
	2020.3期 (直前期実績)	2023.3期 (中計3年目)	成長率 (2020.3期比)
売上高	37,713	47,000	1.2倍
営業利益	3,298	5,200	1.6倍
営業利益率	9%	11%	+2 point
当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)	1,765	2,800	1.6倍

(百万円未満切捨て、%表示は小数点以下四捨五入)

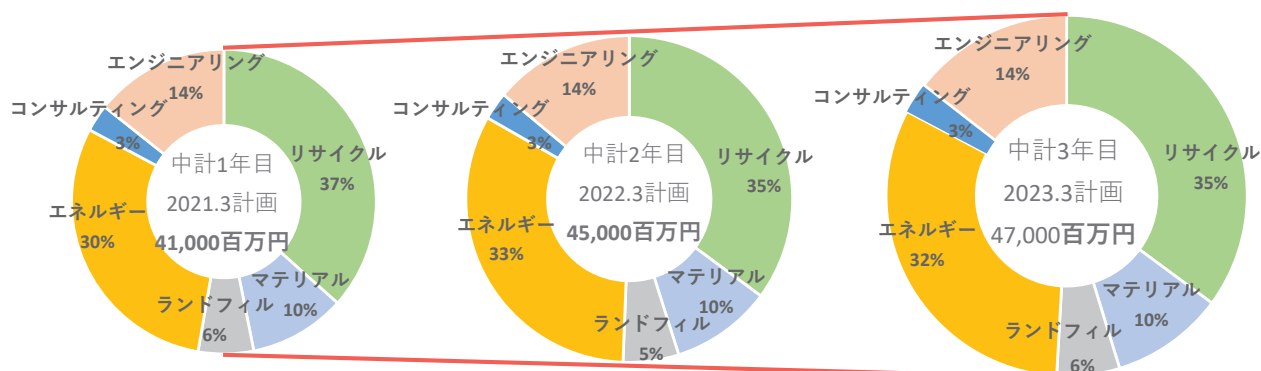
- * 設備投資を継続しつつも、連結営業利益率10%超の達成を目指す。
- * 配当性向25%以上を継続する。
- * 自己資本率40%超を目指す。



タケエイグループの業績（連結実績及び目標値）



事業セグメント別業績目標：売上高



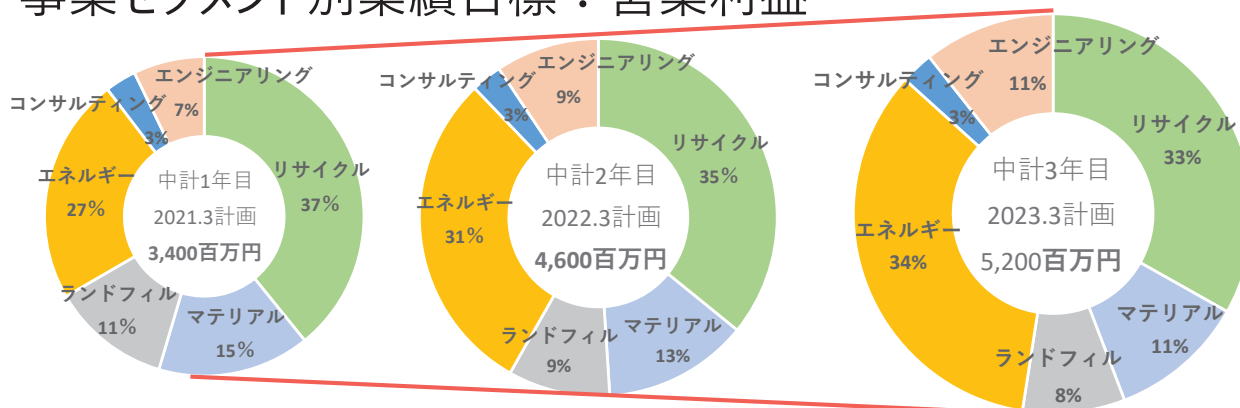
(単位：百万円)

	①中計1年目 2021.3期	②中計2年目 2022.3期	③中計3年目 2023.3期
リサイクル	16,619	17,308	17,919
マテリアル	4,654	4,930	5,172
ランドフィル	2,668	2,717	2,871
エネルギー	13,660	16,107	16,250
コンサルティング	1,310	1,360	1,420
エンジニアリング	6,496	6,884	7,391
連結**	41,000	45,000	47,000

※2020年5月（株）タケエイグリーンリサイクルは、（株）横須賀バイオマスエナジーとの合併に伴いエネルギーセグメントにて集計しています。
 **セグメント別売上高は、グループを構成する各社の単純合算です。連結売上高は、連結調整後の金額です。



事業セグメント別業績目標：営業利益



(単位：百万円)

	①中計1年目 2021.3期	②中計2年目 2022.3期	③中計3年目 2023.3期
リサイクル	1,443	1,731	1,834
マテリアル	568	634	610
ランドフィル	444	446	458
エネルギー	1,047	1,569	1,894
コンサルティング	116	134	146
エンジニアリング	265	453	589
連結***	3,400	4,600	5,200

※2020年5月 (株)タケエイグリーンリサイクルは、(株)横須賀バイオマスエナジーとの合併に伴いエネルギーセグメントにて集計しています。
 ***セグメント別営業利益は、グループを構成する各社の単純合算です。連結営業利益は、連結調整後の金額です。



7

中計『2023 to the FUTURE』 設備投資計画の概要

対象会社 及び拠点	主な設備投資	対 象 期 間		
		2021.3期 (中計1年目)	2022.3期 (中計2年目)	2023.3期 (中計3年目)
タケエイ 東京RC	砂品の製品化 エコ・フォーム製造ライン増設	→		
タケエイ 川崎RC	粗選別のライン化 廃プラスチック等の付加価値化	←→		
タケエイ (仮称)千葉RC	四街道RC移転等	←→		
タケエイ 大木戸最終処分場	安定型処分場拡張	→		
タケエイ 成田最終処分場	安定型処分場拡張	←→		
門前クリーンパーク	管理型最終処分場新設	→		
田村バイオマスエナジー	バイオマス発電所新設	→		
大仙バイオマスエナジー	中間処理機能付加	←→		
東北交易	相馬資源センター新設	←→		

※ 廃棄物処理施設の設置手続きにおいて必要な（各自治体の）許認可取得については、当社グループの想定以上に行政手続きに時間を要する場合があります。計画全体に遅れが生じる可能性があります。



8

3カ年設備投資額／予測FCF／人員計画

(単位：百万円)

☆短期投資額	①中計1年目 2021.3期	②中計2年目 2022.3期	③中計3年目 2023.3期
①設備投資（連結）	9,850	6,600	5,600
うちタケエイ	2,540	2,700	2,900

※設備投資額は現状想定案件のみをもとに算出。

(単位：百万円)

☆予測FCF	①中計1年目 2021.3期	②中計2年目 2022.3期	③中計3年目 2023.3期
②減価償却費	4,070	4,800	4,400
③営業利益－法人税	2,000	2,800	3,100
FCF(②+③-①)	▲3,780	1,000	1,900

※②減価償却費には、市原グリーン電力(株)分は含まず

※③法人税の税率係数は0.4として計算。

(単位：人)

☆人員計画	①中計1年目 2021.3期	②中計2年目 2022.3期	③中計3年目 2023.3期
従業員（連結）	1,438	1,495	1,503

主な設備投資 2021.3期

㈱タケエイ / 東京RC改善、大木戸最終処分場拡張	2,540百万円
㈱門前クリーンパーク / 管理型処分場開発	2,700百万円
その他（エネルギー / 前処理機能強化等）	4,610百万円

主な設備投資 2022.3期

㈱タケエイ / 川崎RC改善、(仮称)千葉RC新設	2,700百万円
㈱門前クリーンパーク 管理型処分場開発	1,200百万円
東北交易(株) ※相馬関連事業	750百万円
その他（エネルギー / 発電能力増強等）	1,950百万円

主な設備投資 2023.3期

㈱タケエイ / 成田最終処分場、(仮称)千葉RC新設	2,900百万円
㈱門前クリーンパーク 管理型処分場開発	1,600百万円
その他(新規事業 / 廃液の有効活用等)	1,100百万円



9

タケエイグループ経営理念及び経営ビジョン

環境関連事業

環境関連事業の拡充

廃棄物の3R（Reduce 減らす／Reuse 再利用する／Recycle 再資源化する）および適正処理を推進するため廃棄物処理・リサイクル事業へ一層注力するとともに、環境保全に資するコンサルティング事業、エンジニアリング事業を拡充する。

再生可能エネルギー

再生可能エネルギー事業の拡充

地元産の燃料を使って生み出したクリーンなエネルギーを供給する発電・電力小売事業を核とし、自社で保有する森林の保全及び燃料チップの自己調達を目指す林業経営、発電に伴って生じる余熱の農林・水産関連事業等への応用などにより、再生可能エネルギー事業を拡充する。

経営理念

資源循環型社会への貢献を目指す

総合環境企業として、自然との調和・地域住民との共生を基調とし、多様なニーズに対応したリサイクル技術の確立と施設の充実を推進することによって資源循環型社会へ貢献する。

環境保全を通じた社会貢献

豊かな大地・森・海からなるOnly One Earth（かけがえのない地球）を守り次代に引き継ぐため、資源循環や気候変動などの社会課題の解決策を講じ、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に寄与する。

社会貢献

ステークホルダーとの関係強化

「四方よし（売り手・買い手・世間・環境）」を目標とし、株主様・お客様・従業員はもちろん、近隣住民・地域社会や行政機関、金融機関など当社を取り巻く全てのステークホルダーとのコミュニケーションを促進し、パランスの取れた関係を強化する。

ステークホルダー

⇒ 定性目標として成長戦略等提示

10

1. 再生可能エネルギー事業の拡充 〈1〉

＜首都圏バイオマス発電事業の近況＞

- 2020年5月1日に株式会社タケエイグリーンリサイクル（以下、タケエイGR）は、株式会社横須賀バイオマスエナジー（以下、横須賀BE）を吸収合併し、一体的な燃料材の受入・リサイクル体制を強化しました。
- 2020年4月30日に取得した市原グリーン電力株式会社（以下、市原GPW）は、国内最大級のバイオマス発電事業を継続します。

＜市原グリーン電力の強み＞

- 発電能力は49,900kw（横須賀BEの6,950kwの約7倍）で、バイオマス発電設備としては国内最大級の能力を有します。
- 建設廃材を中心にバイオマス比率は95%以上となっており、2008年の稼働開始以来の長期運転実績を持ちます。
- 建設廃材に加え、間伐材やRPFなど、複数のバイオマス燃料の混焼が可能です。
- ほぼ100%国内で調達可能な燃料供給体制を構築し、景気動向に左右されない高い安定性を有します。

↓市原グリーン電力



↑タケエイグリーンリサイクル
横須賀バイオマスエナジー↓



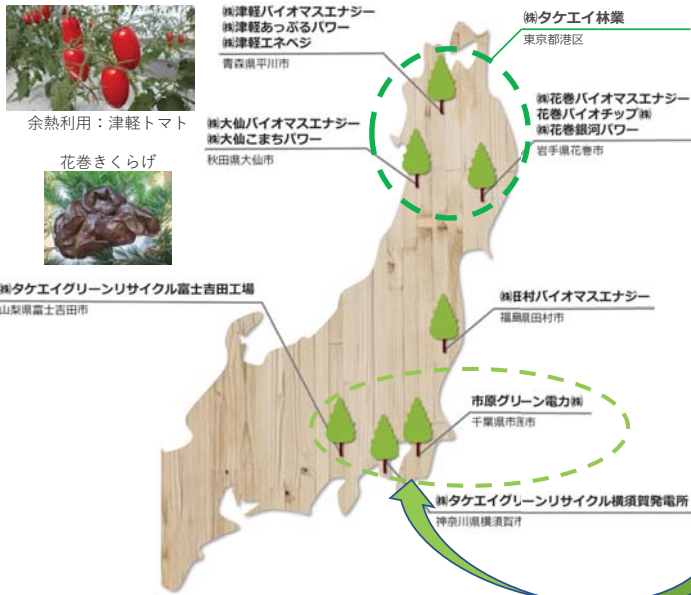
＜都市型バイオマス発電モデルの更なる進化＞

- 横須賀BEは今後、中間処理機能も有する都市型バイオマス発電所として、剪定枝等のリサイクル事業を行うタケエイGRとの一体運営による効率化を追求します。
- 首都圏では、合併後のタケエイGRと市原GPWによる連携も強化します。両社は、共に建設廃材、剪定枝、間伐材、RPF等を混焼するノウハウも持ち合わせる都市型バイオマス発電モデルです。
- タケエイを含めた首都圏グループ各社は、建設廃棄の強固な営業基盤と集荷力を有しています。両社と共に、一層の環境への貢献、競争力強化、収益確保を図ります。
- 中長期的には、当社グループ都市型バイオマス発電のノウハウを蓄積し、燃料供給の安定化を推進します。さらには、FITに依存しない木質バイオマスに関する上流から下流まで一気通貫のビジネスモデル構築を目指します。

1. 再生可能エネルギー事業の拡充 〈2〉

＜木質バイオマス発電事業の展開＞

- 2015年青森県平川市を皮切りに、岩手県花巻市、秋田県大仙市、神奈川県横須賀市にてバイオマス発電所を稼働し、2020年4月には市原GPWをM & Aにて取得、2021年には福島県田村市にて稼働を予定しています。
- 地域社会（地元自治体、林業者等）と地産地消モデルを構築し、余熱利用にも積極的に取り組んできました。
- 今後は、地域に密着した各地の特色を活かしつつ、各拠点間の連携、グループシナジーの発揮も推進します。



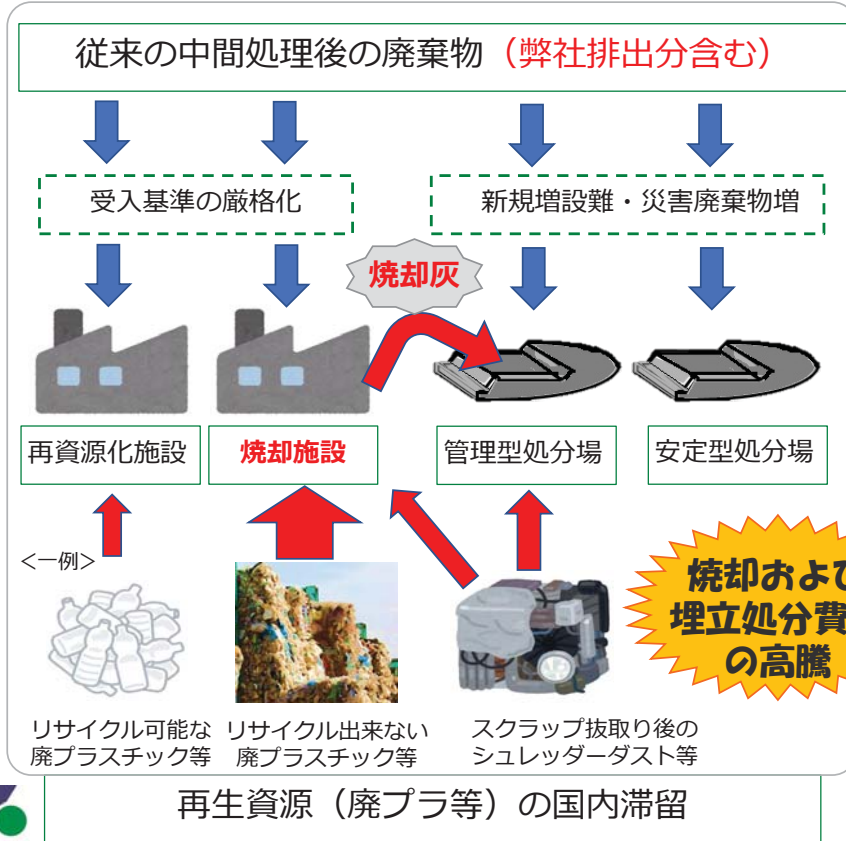
＜タケエイ林業による川上戦略推進＞



- 株式会社タケエイ林業を通じて集荷した間伐材や伐採材について、必要に応じた首都圏大規模バイオマス発電（市原GPW等）での広域利用を推進します。

2. 社会問題化する廃プラスチック等への対応力強化〈1〉

＜廃プラスチック類の国内滞留に伴う焼却費用等高騰の現況＞



＜当社グループの対応策＞

- 当社グループは年間で約75万t超の産業廃棄物を集荷し、中間処理工場において出来る限りリサイクルし、出来ないものは、焼却又は埋立処分しております。
- 中間処理工場においては、リサイクル重視の施設コンセプトを基に、設備の改善 (RPF、エコフォーム増産、廃プラ用ライン改造等) や新設計画 (千葉リサイクルセンター《仮称》等) を推進します。
- 現状、リサイクル出来ない中間処理後の廃棄物についても、再資源化に向けた技術開発や、新たな設備新設等 (焼却炉保有含む) を推進します。
- 埋立最終処分場においては、首都圏に安定型処分場 (タケエイ/千葉県千葉市大木戸) を、北陸地方に管理型処分場 (北陸環境サービス/石川県金沢市) を保有しておりますが、さらに拡充を図ります。
- 上記具体策については、次ページ以降 (P.14~16) もご参照ください。



2. 社会問題化する廃プラスチック等への対応力強化〈2〉

対応策1 / 焼却施設の保有:

- ・グループ拠点隣接地での基盤を活用し、焼却機能を内製化することで、地域から排出される廃棄物の安定処理先を整備します。

対応策2 / 最終処分場拡充:

- ・建設廃棄物を主体とした安定型処分場を首都圏に、廃プラ等の焼却灰の受入も可能な管理型処分場を北陸地方に拡充します。
- ・推進中案件: 安定型処分場: タケエイ (千葉県千葉市、成田市) / 管理型処分場: 門前クリーンパーク (石川県輪島市門前)

対応策3 / リサイクル推進:

- ・2017年6月に取得した福島県相馬市の事業予定地は、広大な事業用地、工業団地内のインフラを活かした総合的リサイクルプラント構想の具体化を図ります (RPF発電、太陽光パネルRC等)。

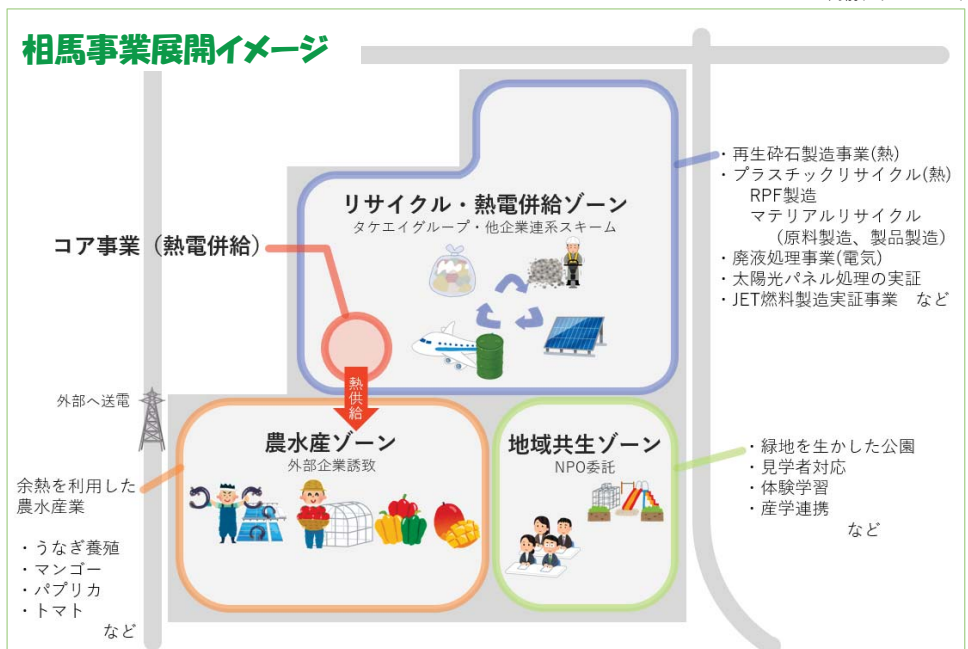
- ・推進中案件: 焼却灰リサイクル事業 (再生砕石製造) / 東北交易

相馬事業所用地
約85,000坪
↓ (東京ドーム約6個分)

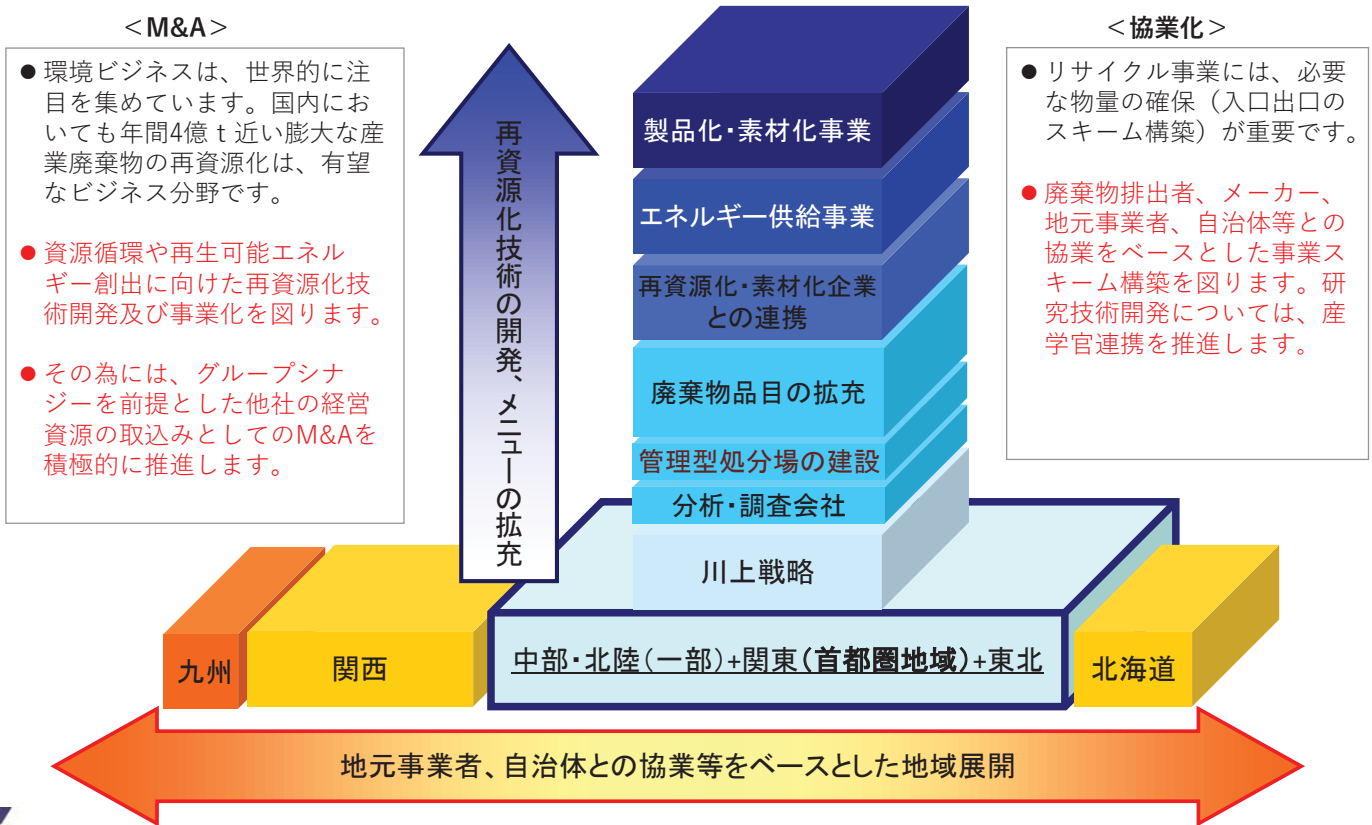


↑開発中の門前クリーンパーク

相馬事業展開イメージ



3. M & A、協業化により「総合環境企業」としての事業領域を拡充



4. 廃棄物の付加価値化、製品化、その為の技術開発 <1>

① 基幹中間処理工場における設備改善を推進する

東京リサイクルセンター	川崎リサイクルセンター
砂品の製品化 (中間処理工程より発生)	粗選別のライン化および 可燃破碎機の更新
廃タイルカーペット リサイクル設備のリニューアル	廃プラスチック等の付加価値化
エコ・フォーム製造ラインの増設	RPFの増産体制確立

➡ 外部処理費の削減、生産性向上、作業負荷軽減

- 労働集約型現場である中間処理工場にてAI、IoTを活用することで、生産性の向上 および製品付加価値化を推進します。



② 現場分別回収を徹底しリサイクルを推進する

顧客との連携 (分別の重要性を認識)	パワーゲート車の導入 (作業員の負荷軽減)	半透明容器等の開発 (効率的な回収)
荷下ろし時間の短縮 工場作業方法の改善	WEB受注導入 当社伝票ペーパレス化	ネットワーク化推進 (ITシステム活用)

徹底した分別回収により
高品質の廃棄物を収集

・収運原価率の低減
・顧客満足度向上

- 働き方改革に伴う乗務員不足は業界の共通課題です。環境負荷の低減、効率的な回収等を追求し、収集運搬分野でのネットワーク化を推進します。



4. 廃棄物の付加価値化、製品化、その為の技術開発〈2〉

新たな事業シーズを開拓

- ・産学官連携による有望な事業化技術を絞り込み、技術研究開発を推進します。
- ・全国の潜在ニーズを対象とし、事業化に向けた開発を強化します。
- ・タケエイ技術開発部を核として、グループ技術力の底上げ、実用化を推進します。

5. 災害廃棄物の処理やSDGs推進を通じた社会貢献

環境分野での幅広い貢献

- ・これまで、東日本大震災福島復興プロジェクト(葛尾村、田村、二本松、双葉、浪江等)や、昨年の台風15号、19号被災廃棄物対応などを通じて廃棄物処理支援をこなしてきました。
- ・引き続き、当社グループは災害廃棄物処理の支援に積極的に取り組んでいきます。
- ・タケエイSDGs推進財団は、資源循環や再生可能エネルギー創出など事業活動に関連したSDGsを推進します。



当社グループが主として対象とするSDGs

6. グループ人財の活性化

創業精神を継承し、従業員一人一人が環境企業のプライドを持つ

- ・1967年の創業以降、廃棄物を循環資源として出来るだけ再資源化してきました。
- ・「総合環境企業」としてグループ会社間の垣根を超えたポストチャレンジ制度を導入します。
- ・働きやすい環境(エリア総合職新設、カムバック制度、定年再雇用など)整備します。
- ・IT活用(ペーパーレス化、WEB受注等)によるリモートワーク推進、業務効率化を推進します。



17

参考 1 : 前中計『VISION for 2020』概要

目的: 「資源循環型社会の実現に貢献する」 企業理念の具現化を図る。
(『総合環境企業』に向けた成長投資): **収益源複線化**

期間: 『東京オリンピックに向けた』(5年間) = 2020年3月期を期限



基本: ①東京オリンピックに向け『廃棄物処理・リサイクル事業』対応力強化
②『再生可能エネルギー事業』『環境コンサルティング事業』
『環境エンジニアリング事業』など、新分野への積極的投資計画を推進



目標: ①連結業績 : 売上高600億円、営業利益100億円
②強固な財務基盤 : 自己資本率40%超、ROE15%超
③株主還元 : 配当性向25%超



18

参考2：前中計『VISION for 2020』達成度及び総括

	2015.3期 直前期実績	2020.3期 ①中計5年目実績	2020.3期 ②中計5年目計画	達成率①/②
売上高	264億円	377億円	600億円	63%
営業利益	19億円	33億円	100億円	33%
営業利益率	7%	9%	17%	-8point
親株主に帰属する 当期純利益※	11億円	18億円	50億円	36%
配当性向※	20%	26%	25%超	
自己資本比率	53%	34%	40%超	
ROE※	5%	7%	15%超	

<『VISION for 2020』総括>

- 大幅な未達要因：
 - ①設備投資計画の相次ぐ遅延
バイオマス発電所2カ所、最終処分場3カ所、中間処理施設1カ所
(投資計画進捗は次ページ参照)
 - ②想定していたM & Aの未成立
環境コンサルティング、環境エンジニアリング分野案件
- 達成点：
収益源複線化による連単倍が改善しました。特に再生可能エネルギー事業は、拡充が進みグループの新たなコアビジネスに成長しつつあります。



<新中計『2023 to the FUTURE』へ>

※ 2015年3月期 当期純利益はのれん影響額を除く(負ののれん24億円発生)

※※ 小数点以下は四捨五入



参考3：前中計『VISION for 2020』投資計画進捗

事業年度	対象会社			
2015.3期	グリーンアローズ関東 追浜工場 稼働	富士車輛 100%子会社化	タケエイグリーンリサイクル 100%子会社化 (旧:富士リバース)	
2016.3期	グリーンアローズ東北 中計1年目 岩沼工場 稼働	リサイクル・ピア 2015年6月よりタケエイに吸収合併 中計1年目 第2工場 稼働	津軽バイオマスエナジー バイオマス発電 売電開始	イコールゼロ 100%子会社化 廃液リサイクル
2017.3期	タケエイ 中計2年目 大木戸最終処分場 埋立開始	花巻バイオマスエナジー バイオマス発電 売電開始	花巻バイオチップ 木質バイオマスチップ化	
2018.3期	タケエイ(3年目×) 中計3年目 成田最終処分場 ⇒2022年度			
2019.3期		門前クリーンパーク (4年目×) 2018年着工⇒2022年度完工	大仙バイオマスエナジー バイオマス発電 売電開始	タケエイグリーンリサイクル 工場リニューアル 10月～
2020.3期	北陸環境サービス 中計5年目 管理型最終処分場 埋立開始	横須賀バイオマスエナジー 3年目→5年目 都市型バイオマス発電 稼働		
2021.3期	タケエイ(3年目×) 以降 千葉リサイクルセンター →工期未定	東北交易(3年目×) 相馬工場 2021年度 稼働予定	信州タケエイ(3年目×) 管理型最終処分場 埋立開始 →無期限延期	田村バイオマスエナジー (3年目×) 2021年1月稼働予定



株式会社タケエイ



本資料に記載されたあらゆる情報は、過去の実績値、概算値、あるいは資料作成時点における将来の予測値であり、数値目標の達成、および将来の業績を保証するものではありません。その記述にあたっては、最善を尽くすよう努力しておりますが、既知、または未知のリスク、およびその他不確実要素等を内包しております。その情報の正確性または完全性を保証、またはお約束するものではありません。